

令和4年度第1回空知圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会議事録

日時：令和4年(2022年)11月8日(火)

14:00~16:00

場所：岩見沢市民会館 多目的室②

出席者 穴澤地域づくり推進員
増井委員、梅原委員、神田委員、鈴木委員、田澤委員、山本委員
吉田委員
小林地域づくりコーディネーター、加藤地域づくりコーディネーター
中川課長、干場主査、武田主任

1 開会

社会福祉課長挨拶

2 特定事案

協議等の申し立てについて
事務局より、受け付けているものはないことを説明。
各委員からも協議等の申し立てがないことを確認した。

3 協議事項

(1) 講演

令和3年度第一回委員会で移動の支援等について考えていく必要があるという意見があり、特定非営利活動法人さっぽろ福祉支援ネット「あいなび」理事長 下川原清美氏を講師として招き、『地域の助け合い活動の実際』と題して講演を頂いた。

(講演内容は別添資料のとおり)

～ 公演後の委員協議 ～

(穴澤地域づくり推進委員)

下川原さん講演ありがとうございました。

それでは、これから昨年度の当委員会でテーマとしていた障がい者の移動支援が、どうあるべきなのかを話し合っていきたいと思います。

(鈴木委員)

下川原さんの講演で、サロン活動を含めて福祉有償運送といった移動支援や福祉有償運送運転者講習を手がけるというのは、私個人としては初めて聞かせて頂いた活動で興味深かった。

運営に関わるスタッフは、どのような人たちなのでしょうか。

(下川原氏)

私達の活動は有償ボランティア活動となります。

ですからスタッフには給料ではなく、必要経費をお支払いしています。

そのような環境ですから、年金で自らの生活を維持している方々がボランティアとして、私達の活動を支えてくれている現状です。

おっしゃるとおり、子ども食堂もサロン活動といった地域交流支援だけではなく、移動支援などを一体で行うことが必要と考え、多くの人に協力をして頂いています。

(鈴木委員)

わかりました、ありがとうございます。

(梅原委員)

空知圏域は下川原さんの活動拠点の札幌市内と比べて圧倒的に人が少ない。

食料品の買い物に行くのだって大変苦労している人達もいる。

例えばサロンといった地域交流活動の場所に集まれる人も多くはなく、少子高齢化が進む今、早く手を打たなければならない課題だと感じているが、人の少なさから難しいなとも感じている。

(下川原氏)

早く手をつけなければというお言葉がありましたがおっしゃるとおり難しい課題です。だから、地域の人が自分で、手弁当でやるのが大切なのです。

地域サロンがなくたって、誰かの家に集まれば良い、一人二人でもいいんです。

話をすることに意味があって、お茶会や昔で言うところの井戸端会議でいい、自分達のことは自分達ですするという発想が大事だと私は思っています。

例えば、行政が何かをしてくれるのではと、それを待っているよりは、すぐに自分達です。

私達の活動の原点は、そういう発想です。

(田澤委員)

私の働いている施設でも障がい者の移動支援は、やはり重要な課題でありまして、必要なサービスの量を確保できない現実があります。

移動サービスを提供している事業所に連絡しても、既に予約が入っていたり、中には人がいないため、移動支援サービスは休止しているといった事業所もある。

特に視力に障害を持つ方の通勤等に苦労しています。

制度的にも通勤・通学は市町村の支援対象外であることが多く、それも課題だと感じています。

(下川原氏)

それは、日本全国で関係者が頭を悩ませている問題なんです。

支払える金銭があっても、対応できる業者が非常に少ないという現実なんです。

我々は福祉有償で児童の通学の送迎も行っているが、障がい者の通学・通勤は高齢者の通院と時間的に重なってしまうため、やはり対応出来る量には限界がある。

私達は有償ボランティアで活動しているが、福祉有償で移動支援を行っている事業所の多くは職員で対応するため、人手不足となっている。

障がい者だけではなく、高齢者も苦勞をしていらっしゃる。

(穴澤地域づくり推進委員)

今回のテーマは障がいを持つ佐藤委員が前回の委員会で、買い物に行くにも非常に苦勞しているといった発言から始まったものなんです。

利用するのも簡単ではなく、利用できてもタクシー代の負担は大きいものであると。

私は生活困窮者支援の活動も行っているのですが、地方にも以前土木作業に従事していた方が、もう土木作業は出来ないけれど、自家用車の運転はできるといった人がいる。

そういった人達と障がい者福祉・高齢者福祉などが結びついていく可能性を感じました。

(神田委員)

講演と、その後の皆様のお話を聞いて、障がい者の就労のための通勤などの支援は重要だと考えています。

サービス提供量が不足している現実で、移動支援などを有償ボランティア活動で行うことは意義あることだと感じるし、私自身も何か役立てることがあればと考えるようになりました。

素晴らしい講演だったと思います。

(増井委員)

私は夕張市内でお弁当を作って配達する仕事をしています。

そうした中で高齢者の方などが、お弁当の配達に感謝してくれつつも、買い物や外食しようとする手段がないという声をよく聞きます。

夕張は人口が減っており、高齢化率も高いところだけれど、元気があって地域をなんとか良くしたいと考えている人もいます。

今日の講演を聴いて、自分にも何かできることはないかと考えるようになった。

ありがとうございます。

(下川原氏)

夕張市では、社会福祉協議会が福祉有償を手がけていて、私も関わりがある。

増井委員の何かしたいという言葉はとても嬉しい。

夕張市は全国有数の高齢化率で、市外の病院に行こうとすると決して近くはない。

行政がもっと手厚くしてくれないかという思いもありますが、そういう地域で若い方がまとまって話し合っただけで役所にももの申すとか、自分達でできる何かを手がけていくことが大切だと思います。

(穴澤地域づくり推進委員)

行政に期待する声が出ておりますが、その行政の仕事をしている山本委員から、お話しを聞かせて頂けますか。

(山本委員)

私の勤める由仁町も交通支援に課題を抱える町で、私自身『どうしたらよいのか。』と、考えることが少なくない。

町の職員ということもあり、役所がなんとかできないのかと言われることが多いが、高齢者が増え要望は多くなっているが役場職員は少なくなっており予算にも限りがある中、対応が難しいというのが現実です。

下川原さんの自分達のことは自分達でやるんだという言葉が非常に印象に残っています。

(下川原氏)

役所で担当者といっても、実際は1～2名で非常に多くの仕事を抱えている。

ましてや予算が必要なこととなると、できることには限りがある。

役所に言うとか、役所をお願いしたなど良く見聞きするが、そうして待つことより、自分達でやるしかなかったというのが実感です。

(小林地域づくりコーディネーター)

管内の市町で、例えば高齢者にタクシーチケットを年間24枚支給だとか、腎臓機能障害の方や一定以上の障害を持つ方に助成金を支給するといった支援は行われています。

いわば横並びの状態ですが、移動支援の要望がないのかというと、実際は車椅子を常時利用している方などは苦勞が多い。

車椅子で利用可能なタクシーというのは、特殊な車両で空知管内にそのような車両の数は少ない。

先ほど下川原さんも話されていましたが、通勤や高齢者の通院時間帯に利用希望が集中し、それ以外の利用希望が少ないため、効率が上がらず車両の台数を増やしていくという状況のようです。

そのため、利用しにくい状況が続いて、結局は車両での移動を諦めている方が多い。

(下川原氏)

移動支援サービスを利用しにくい現実を前に、家に閉じこもるようになると社会から孤立してしまう。

高齢者の孤立死などの問題にも関係することですよね、だから、せめて福祉有償運送が利用しやすい状況になればという思いで、こうしていろいろな場所でお話しをさせて頂いています。

(穴澤地域づくり推進委員)

本日の下川原さんのお話を聞かせて頂いて、子ども食堂が象徴的なものに見えました。

そもそも、子ども達にご飯を食べさせるために人が集まるのかということとそこに必要だからあるんですよね。

サロンや移動支援、児童クラブなどに地域のいろいろな人が集まり、そこで話し合われて、課題解決や地域づくりをしていこうというものですよね。

同じように、障がい者の課題に対しても、障がい者だけを対象に話をするというので

はなく、高齢者の課題、生活困窮者の問題に対する手立てを含めた地域というプラットフォームで考えていくことも必要だと感じました。

(2) その他

(穴澤地域づくり推進委員)

委員会は例年、年に2回の開催としています。

次回のテーマにつきましては、今回の意見交換を踏まえ、地域づくりコーディネーターのお二人と事務局とも相談していきますが、委員の皆様方におかれましても、こうしテーマはどうかということがありましたら、事務局までお知らせ下さい。

(終 了)